

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800043		
法人名	社会福祉法人とおの松寿会		
事業所名	グループホーム長寿庵		
所在地	〒028-0521 岩手県遠野市材木町2-22		
自己評価作成日	平成21年11月6日	評価結果市町村受理日	平成22年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390800043&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390800043&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事には職員が進んで参加している。</li> <li>・利用者は自宅にいたときと同じようにゆったりと過ごしている。</li> <li>・家族と情報を共有しながら、生活支援や看取りを行っている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はJR遠野駅から徒歩で7分ほどの場所にあり、階下に小規模多機能が併設しており、職員は兼務となっている。介護には馴染みの関係が欠かせないこともあって、特例以外は職員異動はなく、むしろ様々な状況に応じて柔軟に補完し合うメリットを活かしている。事業所の特徴としては、協力医療機関が隣接していることから、急変時への対応のほか、看取りケアに理解を示していることなどもあって、利用者・家族の安心につながっている。また利用者毎の暮らし場を掲載した家族通信を発行していること、運営推進委員が事業所運営等の推進役として、地域連携に大きな役割を果たしていることなどが挙げられる。職員は、人生の総仕上げを迎える場所が「長寿庵」であるとの認識を共有しながら、一人ひとりの「尊厳」を支えるケアに取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム 長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の勉強会を行った。 管理者と職員は、理念を共有し、日々実践につなげている。	理念とは、「人々の行為を導き、それに一貫性を持たせるためのみちしるべである」とし、法人の理念は「尊厳」を基底に「地域社会の一員として、地域に貢献する」ほか4項目を掲げている。その趣旨を活かすようケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会を行った。 市内清掃に参加したり、みずき団子作りを行い、近所づきあい、交流に取り組んだ。	「いつまでもお客さんではない」という運営推進委員たちの働きにより、イベントには家族をはじめ多数の参加を得ているほか、保育園・ベビーホームの訪問、また市内清掃・マラソン応援等にも参加するなど、地域・近隣住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。 地域の方々や市職員、介護支援専門員等が参加し、事業所の運営状況報告、情報交換、意見等をいただいている。	市職員・自治会・老人クラブ・民生委員・家族が構成員として、自治会長の司会のもと、事業報告、災害協力、待機者、新型インフル情報等のほか、委員の役割についても率直な意見や提案が行なわれるなど、実際的な話し合いの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加して情報の交換、収集を行っている。 問題があった場合等には、市町村に相談している。	市の担当者から入所・待機者、新型インフルなどの情報提供等のほか、包括センターからは広報の提供や利用者家族の問題解決に向けた指導助言など、後方支援者としての連携が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会を行っている。 日頃から身体拘束をしないケアを行っている。開所時から今まで、身体拘束を行ったことは無い。	身体拘束廃止のマニュアルの整備や研修を行うほか、エレベーターや階段、玄関、居室などへの施錠や制約をすることなく、見守りや声かけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や排泄介助の際に身体チェックを行っており、現在まで、虐待が疑われるような事例は発見されていない。 身体拘束廃止部会が研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は12月に研修を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法改正に伴う利用料金の変更等について説明している。 契約時や解約時には、利用者及び家族に十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族意見交換会を開催し、利用者や家族の意見等を施設運営に反映させている。 重要事項説明書に苦情受付機関を明示している。	家族との意見交換会を通じての意見・要望を聞いたりするほか、日頃は家族の来訪時や受診の同行時等に聞いたり、家族アンケート等を実施したりして運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面接を6月に実施した。 就業に関するアンケートを実施している。	就業アンケート、職員面接、悩み相談、勤務シフトに対する希望、意見、提案等を聴く機会を設定しながら、利用者との馴染み関係、職員間の人間関係の円滑化に配慮した環境づくりに努め、働く意欲の向上やサービスの質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より資格給が創設され、向上心を持って働ける環境になりつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の把握までには至っていないが、研修の機会は設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催されるグループホーム協会定例会に職員が交代で参加し、情報交換している。 市内のグループホームと職員レベルで交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実調を行い、入所後はセンター方式のシートを活用し、その人の暮らしの把握や不安、要望等を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調を行い、不安、要望等を聴取している。センター方式シートを活用し、その人の暮らしの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始後、以前の担当ケアマネからも本人や家族の意向や要望を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士のトラブルが生じた時には、両者の間を取り持つ役割を務めている。裁縫や料理等、利用者ができることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に情報提供している。電話で家族から利用者の情報を聴取したり、利用者の日頃の様子を家族に伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問を実施している。昔馴染みの理美容院の利用を支援している。出身地域の敬老会への参加を支援し、古くからの知人・友人との交流機会を作っている。	行きつけの理美容への継続支援、出身地区の敬老会参加、故郷訪問など、馴染み関係支援のほか、句会クラブ員・歌や踊り仲間の訪問、電話による交流など、これまでの生活の延長線上の人間関係のつながりを大切にする支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席、外出する際にはクルマの座席の座り方等を工夫し、トラブルが起きないように、また、利用者が不安にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はまだ退所者はいないが、普段から利用者や家族の相談等に応じ、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から要望、意見等を聴き、職員間で情報を共有している。	慣習・風習を活かす「八幡宮参拝」「1日市(ひといち)」等への支援のほか、利用者の自立を活かした散歩、外食支援ドライブ、菜園作りなど、多彩な支援を行っている。なお、センター方式の記録を継続しながら、本人の視点に立った検討や取組みにも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は仕事に入る前に記録の確認をしている。申し送り等でも把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での話し合いにとどまっている。家族からは面会に来た際等に要望を聴取し、介護計画に反映させている。	定期的に行うカンファレンス時に、センター方式で日頃の変化を記録した内容や家族訪問時の意見等を加味し意見交換しながらケアプラン作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をし、問題点があった時は職員間で話し合い、場合によってはセンター方式シートを活用し、気づきや工夫を共有しながら、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物等の希望があった時には希望の場所に出かけたり、天気の良い日にはドライブに連れ出すなど、その時々状況に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理美容院に行ったり、地域のボランティアに来てもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が納得し、希望している医療機関の受診を支援している。利用者のかかりつけ医療機関とは良好な関係を築いており、特に隣接する開業医の強力なサポートが、利用者、家族、職員の安心を生んでいる。	医療受診は、原則として本人・家族等の希望するかかりつけ医となっており、受診の際は症状等を医師に情報提供するほか、家族へも即刻報告している。なお隣接して協力医療機関があるため、緊急時の対応等において家族等からは安心と信頼につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や情報を逐一伝え、素早い対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者がいない。 日頃から病院関係者との良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1名の看取りを行っている。 看取りについて、家族との話し合いを持った。 医療関係者とも連絡を密にとっている。	看取りケアを行う方針で取り組み家族にも説明し理解を得ており、現実にその看取りケアを行っておける。全職員、事業所としてできる最大限の支援のため隣接する協力医の全面支援のもと、安心して納得した人生の最期を迎えられるよう必死に取り組んでいる。	職員のほとんどがターミナルケアを経験している。隣接する医師との連絡・連携体制の中で、今後も人生の最期に向けた最大のケアの実施に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する医療機関と合同で、心肺蘇生法の講習を受け、実践力を身につけるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を年2回行っている。訓練には地域住民の参加を仰ぎ、施設及び利用者に対する理解と災害時の協力が得られる体制を築けるよう努めている。	消防訓練には、自治会・近隣の人たちも参加(16名)頂き、避難誘導などの役割を担当するなど、地域住民の協力体制が整っている。なお、消火器の点検や消火器の模擬演習等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設長が「尊厳」についての考え方、とらえ方を職員に伝えた。 日頃からプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。言葉かけに関する苦情はない。	利用者は、態度や語調を敏感に感じ取れることを職員はよく心得ており、「やさしく、穏やかに話しかける」援助やケアを目標とするほか、個人の尊厳を損ねることのないよう確認し合いながら取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを話しやすい環境作りに努めている。利用者と職員が1対1で行う学習療法は、様々な話題について語り合う機会にもなっており、利用者の思いを話しやすい環境ができています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事と入浴以外は、利用者のペースを大切にしている。 行事やレク等の参加も本人の意志を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて、馴染みの理美容院を利用できるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の嫌いなものを把握し、嫌いな献立の時には代替りのものを提供している。 献立には利用者の希望を取り入れている。	利用者の希望を取り入れて2週間ごとに献立をつくり、職員と一緒に食材を購入したり、調理加工の手伝い、配膳や後片付けなど、それぞれできる役割を大切にしている。なお、夜間の水分補給にペットボトルを準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを意識して献立作りを行っている。 食事量や水分量は記録し、少ないような時は声かけをして、必要量の摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで用をたせるよう支援している。	全介助の一人を除いて、他の利用者は誘導や声がけにより自立で排泄ができており自信につなげている。なお、排泄支援の際は本人のプライドを損ねないよう礼節を重んじた対応で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に意識して取り組んではいない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望する時間に合わせて入浴している。	毎日入浴への対応のほか、最低でも週3回の入浴や清拭で清潔保持に努めている。また全介助の利用者には特浴で対応するなど、一人ひとりの状況や希望を活かし、入浴後は水分補給を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度管理、寝具の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能等説明書をファイルし、それによって副作用等を理解している。 飲み忘れや誤薬を防ぐため、服薬マニュアルに基づいた取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ではないが、レクや軽作業を行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いに沿って、墓参りや懐かしい場所、特別な楽しみ等、行きたい場所への外出支援を行っている。	名所観光、花見、白鳥の飛来場所などへのドライブのほか、買い物、外食、行きつけの理美容院、実家の仏前参り、盆正月の故郷訪問など、希望に応じた外出支援をしている。天気の良い日には、裏の河原で遊ぶ子供たちやゲートボールの方々との交流を楽しみに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元に持っていたき、欲しいものがあれば自分で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に葉書や手紙を出している。本人の要望に合わせて電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーや花を飾ることで季節感を取り入れている。 季節の行事に合わせて模様替えをしている。	ホームは2階にあり、早瀬河原や町並みの様子、また遠方の山並みに四季の変化を感じることが出来る環境にある。調理場からは、利用者の動きが直に感じられ、ソファ、テレビのほか、小上がりには炬燵が置かれ、思い思いにテレビや読書、編み物などを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーがくつろぎのスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に思い出の写真を貼っている。 自分の好きな花を飾っている。	入所前の生活環境を維持し、日々膝元に置いた物品(小物入れ、ラジカセ、家族写真)などを持ち込み、枕の位置や方向についても本人や家族と相談するなど、細やかな心遣いや配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の点検、危険場所の点検を実施している。		